

# MJ かけはし

## 令和6年度志願者概況

真壁医師会准看護学院は、69年の永年の歴史を紡ぐ、伝統ある学院です。この半世紀を超える歴史の中で、既に2,362名の卒業生を送り出し多くの卒業生が地域医療の担い手として活躍しています。

当学院志願者を地域別にみると、当医師会管内である筑西市・下妻市・八千代町・桜川市出身者が多く、次いで隣接する古河市・結城市・常総市などの県西地域全般に及んでおり、つくば市・つくばみらい市・水戸市・小美玉市等、県南・県央地域からも少数ながらも毎年志願者がいます。更には県境に近い栃木県小山市、宇都宮市など、通学1時間圏内でアクセス可能な各地域に広がっています。

誰かの役に立つために

## 看護の道をゆく

これからのわたしのために



## 医療機関、介護・福祉施設に所属して学ぶ

入学者の多くは、医療機関や介護・福祉系の施設を始めとして、通学可能な範囲の施設などに所属し、給与収入の他、奨学金等の支援を得ながら、学んでいる生徒が多数を占めます。実際に、医療機関や施設等で働きながら学ぶ事ができる准看護学院のメリットを、多くの生徒が享受しているのが現状です。

## 各種給付金等を活用して経済的負担を軽減

県・市町村・公共職業安定所（ハローワーク）等の定める各種修学資金、支援金等があり、条件が合えば在学時の経済的負担の軽減策の一つとして、これらの制度を活用することも可能です。

## 卒業後の進路（67回生）

卒業後の進路は、所属する病院・医療等へ就職する生徒が96%、正看等の看護学校への進学者が4%となっており、自分自身の将来像を見据えたそれぞれの進路選択をしています。

## 団塊の世代が75才以上になる2025年問題

2025年には、団塊の世代といわれる第一次ベビーブーム（1947～1949年）に生まれた方々が75歳以上の後期高齢者となるタイミングです。つまり、後期高齢者が一気に増えることとなります。

高齢者が増えれば疾病を抱える方も増え、医療・介護の需要が高まることが推測されており、必然的に看護職者のニーズも高まることとなります。

厚生省が発表したデータによると、2025年における看護職員の供給推計は約175万～182万人である一方、必要とされる看護医の人数は約188万～202万人と推測されており、看護職者不足が社会問題となることが危惧されています。

また、超高齢化社会に伴い、病院等の医療施設を中心としていた従来の医療体制から、在宅や地域へと療養の場が拡大することにより、居宅訪問サービスをはじめとする在宅支援においても看護職者のニーズが高まると、活躍のフィールドがますます

す広がります。

当学院では、幅広い年齢層の皆さんが医療機関等に所属して働きながら学び、卒業後は地域医療の最前線で活躍しています。是非とも当学院で学び、資格者としてのファーストステップを踏み出してください。

## 真壁医師会准看護学院の特色

- 69年の歴史を紡ぐ伝統ある学院
- 男女共学、主婦・社会人歓迎の開かれた学院
- 働きながらも学べる学院
- 厚生労働大臣指定専門実践教育訓練講座指定の学院
- 経験豊富な講師陣(医師・看護師)による授業
- 1年生に対して2年生が相談に乗り、アドバイスをおくる「プリセプターシップ制」、管内医療機関での就業体験ができる「外来インターンシップ制」など親身できめ細やかなサポート体制
- 准看護師試験の高い合格率

## 第 68 回生(2年生) 資格試験を1年後に控え *Next Step*



令和5年4月に入学した68回生は、入学1か月後に、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、大きな節目を迎えた年に入学された20名。

2年生となり、授業の多くが臨地実習に時間が割かれています。実習先は、病院・診療所・クリニック、老健施設、訪問看護ステーション、保育園等多岐に渡り、教員や現場の看護師の指導のもと、学内で学んだ知識や技術を患者さんへのケアに活かし、実践的な経験を積み、看護師として必要な技術やコミュニケーション能力を身につけることとなります。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を真近かに控え、医療や介護における社会課題が危惧される最中、これからの地域医療を支える看護職者が多様な場でさらなる役割を發揮することが期待されています。人々の生命と生活を支える資格者として、看護師が活躍する場はどんどん広がっています。

### ●年齢

30代 9名 (45%)	40代 5名 (25%)	20代 4名 (20%)	10代 1名(5%)	50代 1名(5%)
--------------	--------------	--------------	------------	------------

傾向としては69回生とほぼ同様の傾向である。20代~40代のリスキニング挑戦者が多数を占める。

### ●性別

女性 17名 (85%)	男性 3名 (15%)
--------------	-------------

例年に比べると男性が少ない年度であった。

### ●通学時間

30分以内 10名 (50%)	30~60分 8名 (40%)	60~90分 2名 (10%)
-----------------	-----------------	-----------------

1時間以上かけて通学する2名は、当学院へ入学する明快な事由をもった方々であった。

### ●入学前の職業等

事業所等従事者	6名 (30%)
介護・福祉系従事者	5名 (25%)
医療系従事者	5名 (25%)
高校・短大新卒者	4名 (20%)

医療現場で働くヘルパー、介護・福祉系従事者が半数を占め、一般事業所等異業種から3割、高校・短大卒者2割となっている。

### ●卒業後の希望進路

病院へ就職	14名 (70%)
診療所・クリニックへ就職	2名 (10%)
介護・福祉施設へ就職	2名 (10%)
進学	2名 (10%)

病院への就職希望者が多数を占め、診療所・クリニック並びに介護・福祉施設への就職希望者と併せると90%になる。進学希望者は、例年に比べて減少傾向となっている。

### ●来年4月の入学希望者(受験生)へメッセージ

- ▷ 10代から50代の高校新卒者から社会人経験者等がいる中で、目指している資格取得のために皆で切磋琢磨できる関係が築けている。
- ▷ 頼れる同級生と一緒に、お互い足りない部分を助け合っ、学院ライフを送っています。不安や悩みがある時は、教務の先生方が親身になって相談にのってくれます。
- ▷ 年代が違って、同じ目標を持つ同級生と学校行事や実習に行くので、自分と違う考え方や気づきがあり、とても充実した学院生活を送れます。
- ▷ 仕事、家事、育児と大変ですが、同じ境遇の方もいるので心強いです。悩み事なども先生からの確かなアドバイスを頂けるので安心です。
- ▷ 日々の課題や実習で忙しくなるため、入学前に生活のリズムを整えておくとうれしいと思います。入学してからの二年間はあっという間です。
- ▷ 毎日コツコツやるのが大事です。その日に学んだことは、その日のうちに覚えれば、テスト前も慌てずにいられます。
- ▷ 教科書に沿ってわかりやすく、教えてくれます。大丈夫! やればできる!

- ▷ 最初は学校の規則や守らないといけないことがあるため、辛い思いもありますが、すべて自分を変えていく成長の過程として乗り越えて下さい。
- ▷ 専門用語など難しい内容がたくさんありますが、一回で全部覚えようとするよりは、何回も繰り返して復習することが記憶に残って覚えられます。
- ▷ 家事、育児があるので、隙間時間で学習しています。授業では、後で読み返した時にわかるように、先生の説明内容などを教科書に直接書き込んでいます。
- ▷ 家庭がある人も多く、家で勉強の時間をつくるのは、その人の生活様式に合わせた学習方法を確立していけば良いと思う。
- ▷ 日々の復習を繰り返す事で、少しずつ身に付くと感じた。先生方も質問・不安に丁寧に応えてくれるので安心して授業を受けられる。
- ▷ 初めて学ぶこと、知らないことはとても不安になりますが、学んだことがつながっていく、それがとても楽しいです。
- ▷ 毎日、新しい発見があって楽しい。覚えることが多く大変なこともあるが、授業を重ねる度に知識が身に付いてくるのが実感できる。



## 第 69 回生(1年生) 看護の道へ *First Step*

桜が咲き誇る令和6年4月、第69回生30名が入学しました。10代から50代まで、今年度も幅広い年齢層の様々な社会経験値をもった方々が、准看護師資格取得を目指し、その第1歩を歩み始めました。

人は日々たくさんの選択をして生きています。社会人を経験して、しかも異業種から看護師への選択となれば悩み、迷い、逡巡するのは至極当然なことではありますが、当学院を卒業した先輩達は、その壁を乗り越えこの大きな人生の選択に成功し、目的を叶え医療の最前線で輝いています。

看護師は、人々の健康な生活の実現に貢献するするとともに、自分自身の人生を豊かにし、社会的にも評価を受けているやりがいのある仕事。2年後の資格取得のために、その選択を後悔させぬよう、当学院が2年間きめ細かくバックアップしていきます。

### ●年齢

40代 12名 (40%)	30代 8名 (27%)	20代 6名 (20%)	10代 2名(7%)	50代 2名(7%)
---------------	--------------	--------------	------------	------------

ここ数年幅広い年齢の方々が資格取得にチャレンジしている状況に、大きな変化はみられない。

### ●性別

女性 22名 (73%)	男性 8名 (27%)
--------------	-------------

男性看護職者は全国的にみても増加傾向にある。経済的に安定しており、社会的ニーズの高さなど、様々な利点が再認識されており、今後、更に需要が高まることが予測される。

### ●通学時間

30分以内 14名 (47%)	30~60分 11名 (37%)	60~90分 4名 (13%)	90分以上 1名(3%)
-----------------	------------------	-----------------	--------------

1時間以上かけて、当学院に通う人が数名いる。多少の時間を犠牲にしても、当学院で学ぶことを優先し選択する方々が、例年少なからずいる。

### ●看護職を目指した理由(複数回答)

1位 看護の仕事に憧れていたから	17名
2位 看護職は安定した職業だから	13名
3位 看護の資格を取れば就職に困らないと思ったから	12名
4位 身内に看護職者がいたから	10名
5位 病気で苦しんでいる身内をみて力になりたいと思ったから	3名
その他	5名
・介護職からのスキルアップ	
・人の為になる仕事に就きたいと思ったから	
・現在働いている職場でもっと専門的な事をしたいから	

それぞれの思い描く職業観、価値観の基に、理想と現実を踏まえ、看護職への道を選択していることが伺える。

### ●これから卒業までの2年間をどのように過ごすか。

- ▷ 少しずつ生活を見直しながら改善をし、自分に合ったベストな状態で勉学へ取り組みたい。
- ▷ これからも介護、看護に関わるために知識、技術を身につけてこれまで以上の支援を提供できるようにしたい。
- ▷ 授業や実習で自ら積極的に学ぶ姿勢を持ち、自己研磨の精神を持ち続け、他の生徒や教員との交流を大切にしたい。
- ▷ 今まで子育て中心で自分の時間が全くなかったので、友人との関わりや新しい学びを楽しんでいきたいです。
- ▷ 人一倍努力が必要だと思うが、できる限りの知識と技術を身につけ、2年後には准看護師になれる様、頑張りたい。
- ▷ 学ぶべき事をしっかり学び、子育てと学業をきちんと両立しながら必ず看護師になる
- ▷ 所属先での仕事も頑張りながら、毎日の授業を真面目に受けて、知識と技術を身に付けられるよう努力します。

### ●准看護学院への進学を決めた理由(複数回答)

1位 働きながら学ぶことができる	17名
2位 自分自身の年齢を考えて	15名
3位 短期間で資格が取れる	12名
4位 親・知人・友人等からのアドバイスがあった	11名
5位 入学金、授業料等の学費が安い	9名
6位 子育てと学業の両立ができると思った	7名
子育てが一段落したから	7名
8位 家庭と学業の両立ができると思った	6名
9位 経済的に余裕ができたから	1名

これからの人生を見据えた、社会人経験者ならではの選択事由が上位を占めた。

- ▷ 自分の弱さと向き合い、向上心を持って毎日を過ごし、充実した生活を送り、成長したいと思います。
- ▷ 日々の生活リズムに気をつけ、体調を崩さないよう心がけ、前向きな精神で学院生活を過ごしたい。
- ▷ 辛い時こそ、何故看護師を志したのか原点に立ち返り、目の前のことをひとつひとつ積み上げて資格取得を目指します!
- ▷ 日々の学習や授業で、知識や技術を積み、准看護師になるための資格がとれるように、学び続けます。
- ▷ 資格試験に合格するために、勉強に力を入れる。看護の知識・技術を身につける。学生生活を思いっきり楽しむ!
- ▷ 一人で悩まず、クラスの皆と切磋琢磨しながら、資格取得、卒業に向かって歩んでいきたいと思っています。

# 奨学金・給付金を活用して資格取得へ

当学院の生徒の中でも、経済的な不安を抱える人は少なくありません。当学院ではその不安を解消し、経済的負担を軽減する為の奨学金・給付金制度を紹介しています。実際の各種奨学金・給付金の活用例を参考にしてください。

## ○ 異業種から看護職への転職を目指している A さん (40代)

半年前に長年勤務した職場を退職。ハローワークで当学院が専門実践教育訓練給付金の対象校であることを知り、受験を決意。入学後は学業に専念し、地元医療機関への就職を目指している。返還免除制度がある行政からの修学資金と、ハローワークからの給付金を得ながら通学。



① 茨城県看護師等修学資金 **252,000 円**

③ 専門実践教育訓練給付金 **195,350 円** (1年次)  
**150,000 円** (2年次)

## ○ 地元病院で看護助手として勤務している B さん (10代)

勤務先医療機関からの奨学金と給与収入、また返還免除制度がある行政からの修学資金を得ながら通学。



\* 勤務先病院からの奨学金 (病院ごとに金額は異なる)

入学時諸経費(女性) 177,000円の内、一部135,000円と授業料等400,000円/年を奨学金として受給

\* 給与収入 月額 **50,000 円** ~ **80,000 円** 程度 (病院ごとに金額は異なる)

① 茨城県看護師等修学資金 **252,000 円**

## ○ 高等学校中退で介護職から看護職へのキャリアチェンジを目指す C さん (20代)

職場を退職、新しい職場で夫の扶養の範囲内で働き、ハローワークからの給付金と返還免除制度がある行政からの修学資金で学費等を確保し通学。

① 茨城県看護師等修学資金 **252,000 円**

③ 専門実践教育訓練給付金 **195,350 円** (1年次)  
**150,000 円** (2年次)

4-1 茨城県私立高等学校等就学支援金 **118,800 円** ~ **276,000 円** (前年度所得によって異なる)

\* 給与収入 月額 **50,000 円** ~ **80,000 円** 程度 (病院ごとに金額は異なる)

## ○ 高等学校中退で異業種から看護職を目指すシングルマザー D さん (30代)

資格取得し安定した生活基盤を築くために、一般企業からの転職を目指し、自治体およびハローワークに相談。行政からの資格取得を目指すシングルマザーの生活費支援とハローワークからの給付金、また返還免除制度がある行政からの修学資金を受給。経済的不安が解消されたので資格取得を決意した。

① 茨城県看護師等修学資金 **252,000 円**

② 高等職業訓練促進給付金 (住民税非課税世帯) **1,200,000 円** (1年次) **1,680,000 円** (2年次)  
(住民税課税世帯) **846,000 円** (1年次) **1,326,000 円** (2年次)

③ 専門実践教育訓練給付金 **195,350 円** (1年次)  
**150,000 円** (2年次)

4-1 茨城県私立高等学校等就学支援金 **118,800 円** ~ **276,000 円** (前年度所得によって異なる)

4-2 茨城県私立高等学校等奨学給付金 **142,600 円** (住民税非課税世帯のみ給付)

## 各奨学金・給付金の詳細はこちら

### ① 茨城県看護師等修学資金

卒業後、准看護師免許を取得し、茨城県内の看護職員不足地域にある医療機関などに、看護職員としての業務に従事しようとする方。(看護職員不足地域に5年間継続して看護職員の業務に従事した場合、返還債務免除)

年4回支給  
月額 **21,000 円**

### ③ 専門実践教育訓練給付金

●2年以上雇用保険の被保険者および離職者  
●退職日より1年以内である  
●前回給付を受けている人は3年以上空ける必要がある

教育訓練経費の50% (上限：年間40万円) 年2回給付

※教育訓練経費(入学金・授業料など) ※所属施設での負担の場合は申請不可

1年次 年額 **195,350 円**  
2年次 年額 **150,000 円**

### ② 高等職業訓練促進給付金

●母子家庭・父子家庭の方  
●児童扶養手当の支給を受けているか同等の水準にある方

毎月支給  
市町村民税 非課税世帯 市町村民税 課税世帯  
1年次月額 **100,000 円** 1年次月額 **70,500 円**  
2年次月額 **140,000 円** 2年次月額 **110,500 円**

### 4-1 茨城県私立高等学校等就学支援金

●高等学校等を卒業していない方  
●上限36ヶ月(高等学校などに在籍していた期間を除く)  
●返還は不要 ※支援金額は所得に応じ決定。毎年7月頃に所得情報更新の為改めて受給資格の確認あり

年4回支給  
月額 **9,900 円** ~ **23,000 円**

上記条件を満たし、なおかつ非課税世帯の方 + 4-2 茨城県私立高等学校等奨学給付金 年1回支給 年額 **142,600 円**

### \*医療機関・介護施設で働きながら学ぶ場合(勤務先ごとに金額は異なる)

奨学金…例) 入学時諸経費(女性) 177,000円の内、135,000円と授業料等 400,000円/年を受給  
給与収入…例) 50,000円 ~ 80,000円/月 程度

### 真壁医師会准看護学院 学費について

●授業料 年額 **276,000 円** ●教材費 年額 **12,000 円**  
●実習費 年額 **24,000 円** ●PTA会費 年額 **48,000 円**  
●クラス費・駐車場代 年額 **40,000 円** 計 **400,000 円** ※前年度参考